ほとけの子
HOTOKE no KO SERIES
No.4

親鸞聖人

道を求めて

SHINRAN SHONIN

1 比叡山(延暦寺)

785年に最澄(伝教大師)というお坊さんが、すべての人が救われる教えを説く、大乗仏教の根本道場として開きました。ここは山の中にある大きく広いお寺で、男の人だけが修行をしていました。親鸞聖人は1181年から20年の間、きびしい修行と学問にはげまれました。

2 六角堂(頂法寺)

聖徳太子が587年に建てたと伝わるお寺です。親鸞聖人は太子を、人びとによりそい迷いから救う観音さまとして尊敬されました。聖人は比叡山を出て、六角堂へ100日間こもり、悩みと向き合うと決め、95日目の明け方、太子より夢のお告げを受け、法然上人のもとを訪ねる決意をされました。

3 吉水の草庵

吉水の草庵では、比叡山とは大きく異なり、貴族や泥棒も、男も女も、大勢のさまざまな人が共にお念仏をとなえ、法然上人の教えを聞いていました。親鸞聖人は雨の日も暑い日も、大事な用ができても100日は休まず通いつづけ、ついに弟子となられたのです。それから6年の間、法然上人のもとで学ばれました。

発行元 真宗大谷派(東本願寺)青少幼年センター いのちの教育は、お寺から
TEL. 075-354-3440 FAX. 075-371-6171 Email. oyc@higashihonganji.or.jp

勉強やスポーツなど、一所懸命取り組んでいることを応援してもらうことは、とてもうれしいことです。でも、時には親や友だちからの期待が大きすぎて、「期待にこたえるためにがんばるのはしんどいな」と苦しくなってくる。それとは逆に、誰からも期待されない、あるいは必要とされず、「こんな自分なんて、いなくてもいいんじゃないか」と思い悩むことがあるかもしれません。苦しくて、何もかも投げ出してしまいたくなるような、そんな気持ちになってはいませんか。

そんな時、考えてみてほしいことがあります。それはあなたの正直な気持ちです。本当はどうしたいのかということです。

親鸞聖人は、九歳の時に出家してお坊さんになり、比叡山延暦寺に入られました。自分自身が、そしてすべての人々が救われる道を求めて、仏教の修行や学問に励まれたのです。しかし、どれだけ真剣に励んでも、その道を見つけることはできませんでした。親鸞聖人は、思い悩まれました。このままこの場所に居続けてよいのだろうか。自分が本当に求めているものは一体何なのだろうか。

やがて、二十九歳の頃、自分自身と正直に向き合うために、京都の六角堂というお寺に通われました。そしてついに、京都の町で多くの人々にお念仏の教えを説いておられた法然上人のもとを訪ねる決意をされたのです。

比叡山を下りて、生涯の師となる法然上人に出遇われたことは、親鸞聖人にとって新たな人生の出発でした。

親鸞聖人 道を求めて